

SILK NETWORK

シルク通信 No.1

シルクロード・ネットワーク



シルクロード・
ネットワーク協議会
2020年12月発行



2019 南砺フォーラム・井波瑞泉寺 (2019.6.22)

シルクロード・ネットワーク協議会の歩み 米山淳一 (事務局長)

横浜は明治期に生糸貿易で繁栄した港町。生糸は、東北、信越、上州他から主に鉄道に乗って運ばれて来た。この経済・文化交流のおかげで横浜は近代都市として発展したことを忘れてはならない。そんな思いを込めて当公益社団法人では、シルクロード・ネットワーク協議会を設立した。

2015年に第一回フォーラムを横浜で開催して以来、新庄市(山形県)、福島市、鶴岡市(山形県)、南砺市(富山県)と、NPO法人RAC(街・建築・文化再生集団)と協働で開催してきた。2020年は神戸での開催を予定していたがコロナ感染症拡大防止のため中止し、来年に延期となった。

今回は、ファッション都市・神戸から養蚕・生糸との関連のレポートを頂いた。

文化遺産である「絹」が、地域のまちづくりや観光振興に寄与している事例が各地で見られる新たな時代の中で、シルクロード・ネットワーク協議会の活躍の場も広がっている。ご支援、ご協力をお願いいたします。



2015 横浜フォーラム・横浜赤レンガ倉庫



2017 ふくしまフォーラム・福島市飯野町の養蚕集落 (撮影/米山淳一、4点とも)



2016 新庄フォーラム・新庄市エコロジーガーデン「原蚕の杜」



2018 鶴岡フォーラム・鶴岡・松ヶ岡開墾場

港町・神戸で ファッションを紡ぐ

次六尚子（神戸ファッション美術館学芸員）

養蚕独特な抜気屋根を持つ3階建て養蚕農家住宅（養父市大屋町、2016年）



●国際港としての神戸、その名残

神戸は、横浜と同じく港町という地の利を得て、開港以来多くの外国文化をとり入れながら発展してきた。その残り香を感じることができる。港には、三井、三菱、住友と旧財閥系企業の倉庫が新港突堤に顔をそろえ、山側の異人館街周辺には本格的な外国料理店が立ち並ぶ。1923（大正12）年の関東大震災で壊滅的な打撃を受けた横浜港に代わり、国内シェア4割を占めるまでになり、国際港の一つとして栄えた。神戸税関の輸出品目統計をみると、開港当初の主力は緑茶や米。地場産業のマッチや綿織糸が加わり、つづいて、生糸が急増してくる。1925年に「日本絹業博覧会」が神戸で行われた記録はその盛り上がり物語るも、戦後には合成繊維の普及もあり生糸の生産は激減。当時輸出生糸の品質検査を行った「旧生糸検査所」の建築物は、2012年にユネスコ創造都市ネットワークのデザイン都市拠点「デザイン・クリエイティブセンター神戸」（以下、KIITO）として開館し、現在も活用されている。



地域連携企画 記録展示「神戸絹の道 - 「養蚕秘録」を訪ねて」ちらし（2017年）



神戸ファッション美術館 外観



元神戸生糸検査所（現・KIITO）で使用された生糸検査機器の展示（神戸ファッション美術館、2017年）



神戸ファッション美術館でのコレクション展示風景

●神戸とファッション

「履き倒れの街」神戸には、外国人の靴修理から始まる製靴業が根付き、靴職人やメーカーが多い。グローバル企業のスポーツメーカーに成長した株式会社アシックスもその一つで、世界本社を神戸に置く。創業者・鬼塚喜八郎は、戦後に蔓延する非行少年を見かね、「運動靴で青少年の育成を」と、自ら神戸で靴づくりを習ったのが始まりだ。

さて、公立で初めてファッションを専門にする神戸ファッション美術館（以下、当館）が1997年に神戸市内に開館したことは、「ファッション都市」を宣言する神戸らしくもあるが、門外漢の方も多いだろう。主に18～20世紀の西洋の服飾を扱う他に、世界70か国以上の民族衣装、ファッション写真など約9,000点の服飾資料と、蔵書約40,000冊を所蔵する。開館から20余年、美術館活動のなかで衣装作品の素材を綿密に調べることは不可欠だった。しかし、そんな当館も産地や素材のテーマは今まであまり取り上げてこなかった。

●産地、素材をめぐる企画

神戸のことを知るにつれて、衣服文化との関わりが強い街だと感じ始めていた。天然繊維からなる伝統的衣服文化から、合成繊維や履物などの最先端繊維まで幅広く地場産業としてあり奥深い。2015年には「ファッションの産地」と題したセミナー企画を立ち上げ、繊維産業に関わる方による講座を開催。バスツアーでは、実際に繊維産地へも足を運んだ。開港150年の2017年には、「神戸絹の道」と題しKIITOと連携する展示とトークイベントを企画。共同企画者として、素材や地域の繊維をテーマにされる衣服造形家の眞田岳彦氏をお招きし「神戸の繊維」を探访した結果、「絹」が両者の心に最も深く刻まれたのだ。

調査で訪ねたのは兵庫県北部の養父市大屋町。江戸後期の技術書「養蚕秘録」を生んだ上垣守国が生まれ育ち、養蚕住宅が残る地。上垣は、養蚕の知識と技術を三丹地域（但馬、丹波、丹後）に伝え、地域の生活を助けた。また、山を越えて丹波に出ると、製糸の工程で不要になった「くず繭」を農民が木綿布に織り込んだ風合いを好んだ「丹波布」という衣服文化に出会った。後に民芸運動の柳宗悦により美を発見される。

調査上、今はもう上垣のことを知る人は誰もいなかった。眞田氏の言葉を借りれば、地域から風習や伝統が消えることはしばしば起きる。しかし、こうして繊維が紡ぎ出す文化を手繰っていくと、必ず人の知恵が作り出した地域の誇り、つまり誰かが生きてきた証に出会うことができる。古今東西、万人が身につけてきた衣服一枚一枚に宿る物語を追うことが際限なく愛おしく、止められない。

前橋「はじめの一步、歴史がかおるまちづくり」

中村 武

(NPO法人 街・建築・文化再生集団(略称RAC))

27日フォーラム：講師と記念撮影(撮影/田村 取)



2020年度RAC研究集会は、RACの創設地である群馬県前橋市で、9月26日(土:見学会)、27日(日:フォーラム)に前橋市、(公社)横浜歴史資産調査会、(一社)群馬地域学研究所との共催で、「はじめの一步、歴史がかおるまちづくり」(藩営前橋製糸所開所150年記念研究集会)をテーマに開催した。前橋市を開催地にしたのは、平成30年に「臨江閣」、令和元年に「塩原家住宅(旧塩原蚕種本社屋)」が国指定重要文化財に指定されたのを機に、「歴史まちづくり法」の適用を目指し「歴史的風致維持向上計画」と「文化財保存活用地域計画」策定に向けて踏み出すきっかけにしたい思いがあったからである。フォーラムには、前橋市民や絹遺産を活かしたまちづくりに関心のある全国各地から120名を越える方々のご参加を頂いた。新型コロナウイルス感染が危惧される中での開催であったが、幸い感染者を出すことなく行えた。

前橋市は城下町ではあるが戦争による惨禍もあり、歴史的な痕跡も希薄で、一般的にはどこにもあると言われる地方都市のひとつでもある。とはいえ、幕末から昭和40年代にかけて製糸で栄え、今では痕跡を探すのも難しくなったが、市内至るところで大規模な製糸工場が存在していた。現在、市内中心部で私たちが確認できる絹遺産は、前橋城の土塁、前橋東照宮(川越城から移築)、臨江閣、旧安田銀行担保倉庫(蘭を担保にして資金を融通)、撚糸工場、製糸工場及び跡地、工場主の居宅(RACでは今年度以降、絹遺産確認調査を予定)、また市内を流れる広瀬川も含まれて良

26日見学会：重文塩原家住宅見学(撮影/田代洋志)



いと考えている。幕末に川越から松平の殿様をお迎えした前橋城は、横浜で活躍した前橋の生糸商人の資金で再築されたものであり、臨江閣本館は明治17年(1884)に当時の群馬県令楫取素彦の提言により生糸商を中心とした資金で建設されているので、ともに絹遺産と言っても良い。また市の周辺部には旧塩原家住宅に代表される大規模な養蚕民家が数多く存在し、養蚕・製糸が盛んであった頃の景観をкаろうじて残している。今後の歴史的風致維持向上計画策定に当たって、かつての養蚕製糸が育んだ文化と遺産を歴史的風致から外すわけにはいかない。

今後、RACがどのように関われるか不明であるが、前述したどこにでもある地方都市での「歴史的風致維持向上計画」策定は、意義有ることと感じている。

前橋・川越・横浜 絹のものがたりWEBサイト

藤井美登利 (NPO川越きもの散歩代表 東京国際大学非常勤講師)

●コロナ禍の中で

それぞれの地域にコロナ禍は大きな影響を与えていますが、年間700万人の観光客が訪れる観光地川越も、外国人観光客がいなくなり、突然静かなまちとなりました。コロナ以前はオーバーツーリズムの様相で蔵造りの通りはいつも渋滞、食べ歩きのコミのポイ捨てが問題になる状況でした。「遠くから顔の見えないたくさんの人」がいなくなり、「近くの顔の見えるひと」「共通のテーマで訪問しあうひと」の存在に目が向き始めたようです。



前橋製糸所跡にて。シーラクリフさんと

●共通のテーマでつながることの楽しさ

2016年に「埼玉きもの散歩」という単行本を上梓し、埼玉県内の染織工房や養蚕農家見学会、埼玉の蘭でのオリジナルのきもの作り、きもの研究家でもある法政大学総長の田中優子先生の講演会などを企画していた私にとって、シルクロード・ネットワークフォーラムに参加することは、視野を大きく広げるきっかけとなりました。共

通のテーマで交流することで毎回新たな発見があり、また、各地に顔見知りができる楽しさを皆様も感じていることと思います。

●前橋と川越のつながり

幕末に川越藩主松平大和守が、生糸マネーで新築された前橋城に100年ぶりに戻ることで多くの藩士、商人が川越から前橋に移りました。川越城の建物が前橋東照宮に移築されていたり、日本で初めての器械製糸所(前橋)に川越や狭山から製糸を習いに行った先人たちがいます。川越地方の生糸は前橋の士族が設立した会社を通して直輸出をする仕組みもありました。

●川越と横浜のつながり

川越の町のシンボル、時の鐘は明治26年の大火で全焼しましたが、その再建費用の高額寄付者は渋沢栄一とともに横浜の生糸商、原善三郎、野沢屋の茂木惣兵衛、平沼仙蔵でした。もちろん、前橋と横浜は生糸の輸出でつながっています。

これら3か所の絹にまつわる場所、団体、ひとを紹介するWEBサイトを、埼玉県NPO基金の助成を受け作成中です。幕末明治の英国人外交官の日記を読み込んでいる、きもの研究家の英国人シーラクリフ教授の英文コラムも掲載します。横浜で英一番館と呼ばれた商社ジャーデインマセソン、ロシア正教のニコライと前橋藩士の交流などもテーマに発信します。どうぞお楽しみに。

新庄市エコロジーガーデン (旧農林省蚕糸試験場新庄支場) の取組み

柏倉敏彦 (山形県新庄市商工観光課長兼新庄市エコロジーガーデン所長)

昭和9年に蚕糸試験場福島支場新庄出張所として開設以来、いくつもの組織改編を経て、平成12年に閉所。その後、平成13年に新庄市が国から譲渡を受け、今年で100年を迎える節目の年である。新庄市では平成14年に「新庄市エコロジーガーデン」として開設し、これまで「産地直売所」「カフェ」「シェアオフィス」等の利用拡大に努めているところです。

平成25年3月に国の登録文化財の指定を受けたことを契機に、「保存計画」を策定し、利用計画も第4期を数え、公開活用を進めるため、文化庁の助成を頂きながら、今年度まで蚕室3棟の耐震改修を行っているところでもあります。

公開活用を進める上で、特に今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、通常5月から開催していた「キトキトマルシェ」も時期を6月からに変更し、出展者数も半数以下に抑えて、3密対策を講じながらの実施をしているところで、このほか、「ツクツクマルシェ」というワークショップを中心としたマルシェも今年度から実施したところであります。このほか、蚕糸試験場の資料収集、養蚕のための植栽や外構工事も今後の課題となっているところであります。



▶創造交流施設外観

▼キトキトマルシェの様子



鶴岡の若者たちによる「シルクノチカラ」

進藤恵理也 (鶴岡市政企画課)

鶴岡市では、明治5年に始まった松ヶ岡開墾が、来年創業150年の節目を迎える。松ヶ岡に始まる本市の近代化の礎となった絹産業の保存継承と新たな産業振興を目指す「鶴岡シルクタウン・プロジェクト」では、若者たちの創造的活動を源に、新たなまちづくりが推進されている。



▲松ヶ岡開墾場本陣で開催したSNS魅力発信講座

国内最大の蚕室群を有する史跡松ヶ岡開墾場では「むかしむかしのあたりさ」をテーマに事業を展開。歴史と自然が融合する空間で、若者たちによるSNSを活用した魅力発信講座や、子どもを対象としたフィンガーペイントなどを実施した。こう

▶高校生によるシルクのまちPRイベント「シルクノチカラ2020」



した取組を通して、松ヶ岡開墾場の魅力が再発見され、ここを拠点とした日本遺産「サムライゆかりのシルク」ブランド戦略が磨き上げられている。

市内の高校では、シルク関連企業の協力のもと、シルクの総合学習が展開され、絹を学び広く発信するシルクガールズは11年目を迎えた。これらの成果は、シルクのまちをPRするイベントで発表され、多くの市民が若者の手によるシルクを活かした創造力、そして継承を担う強い熱意を感じることができた。

松ヶ岡の歴史とシルクの文化を未来へと紡ぐキーワード、それが「シルクノチカラ」。本市のためまない挑戦をぜひ温かく見守っていただきたい。

SRN information

■2021年度第6回シルクロード・ネットワーク神戸フォーラム開催について

2020年度に開催を予定していた神戸フォーラムは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止となりましたが、この企画を引継ぎ、来年度6月頃の開催を予定したいと思っております。

▶会場に予定しているKIITOは、もと生糸検査所が置かれていた建物



■シルク通信 No.1 2020年12月発行
 ■編集・発行/シルクロード・ネットワーク協議会 代表幹事団体・公益社団法人横浜歴史資産調査会
 ■事務局/〒231-0012 横浜市中区相生町3-61 泰生ビル405
 TEL・FAX/045-651-1730 MAIL/yh-info@yokohama-heritage.or.jp
 ホームページ <http://www.yokohama-heritage.or.jp>